小学生(低)礼拝１月②

真の父母様の生涯路程②「悲しみの神様の為に歩まれるお父様」

きょうのお話は「悲しみの神様の為に歩まれるお父様」です。

真のお父様は10歳の頃、からキリスト教の教会に通うようになりました。

日曜日には熱心に教会学校に通い、人々に幸福をもたらす者になりたいと思い、一生懸命に勉強もされました。

15歳の頃になると、家で飼っていた牛や馬、豚、犬が死んだりして、悲しいことがたくさん起こりました。また、当時は世界で、戦争が起きていました。戦争でたくさんの人が殺されていることを思うと、とても悲しくなり、3日間、目がカボチャのようにグチャグチャに腫れ上がるほど泣いたそうです。

真のお父様は「なぜこんなに悲しいことが起こるのか？」「神様は本当にいらっしゃるのか？」と、一生懸命にお祈りをしました。

15歳の時、猫頭山（ミョドゥサン）という山に登ってお祈りしていた時の話です。その時は、イエス様の復活を祝う復活祭（イースター）を迎える週の1935年4月17日（水）でした。

お父様が、夜中からずっと明け方まで祈っていると、まばゆい光の中にイエス様が現れました。そして、イエス様は悲しい顔をされながら「苦しんでいる人類のゆえに、神様はあまりにも悲しんでおられます。地上で天のみ旨に対する特別な使命を果たしなさい」というみ言を語られたのです。

イエス様と出会った後、真のお父様の人生は変わりました。

いつも、イエス様の悲しい顔とみ言が心から離れませんでした。そして、「神の道」を行こうと決意をされたのです。その道は、とても厳しい道です。しかし真のお父様は、神様を喜ばせるために、「神の道」を行く決心をされたのです。

いつも笑顔の真の父母様ですが、このような決意があったのです。

私たちも神様を喜ばせる、子女になりましょう。